

歴史のしおり 「義経の連れは誰? ~一の谷合戦図小考~」

当館所蔵「一の谷合戦図」3幅(下図)は、作者は土佐光起、江戸時代・17世紀の作品です。右から熊谷直実、平敦盛、源義経が描かれています。

江戸時代には、屏風絵をはじめとして源平合戦を題材とした多くの作品が作られました。ことに「平家物語」の合戦の場面は好まれ、その中から特定の人物やエピソードが独立した画題となったものもあります。「敦盛の最後」「扇の的」などがよく知られています。中でも一の谷・屋島の合戦は、物語のクライマックス。義経という英雄の存在、滅びへと向かう平家の哀切、個性的な武士たちの活躍が人々の興味をひきつけてきました。

また、絵画形式が「対」であることが多い屏風や掛軸に、一の谷・屋島の合戦の題材は、表現形式と内容がよく合っていたということも、盛んに描かれた背景としてあるのではないのでしょうか。

さて、この「一の谷合戦図」は、一の谷合戦のエピソードから、直実と敦盛の2人をそれぞれ1幅に描いています。残るもう1幅は、馬上の大鎧の武者、背景の松、前景の波から「牟礼高松」と称される屋島合戦の一場面であることがわかります。屋島を奇襲する直前の義経の姿です。

さて、現在3幅で一揃いのこの絵。直実、敦盛と一緒に義経を描いた1幅があってもいいように思えますが、それにしても、この3幅の構成には、やや違和感がありませんか?

先にも述べたように、「対」の概念からすると「一の谷」と「屋島」で一對となっています。そして、さらに一の谷は、「直実」と「敦盛」が一對となります。

では、残る1幅はどうでしょうか。「屋島」での義経が描かれていることを考えると、「屋島」

が義経1人であるのはどうも不自然な感じがします。

とすると、義経と対になるもう1幅があったという可能性もあるのではないのでしょうか。本来は4幅でひと揃いか、あるいは2幅ずつ別々の作品であった可能性も出てきます。そうだとしたら、残る1幅に描かれる人物は、いったい誰なのでしょう?

作品が残っていない今、想像でしかありませんが、屋島合戦でことに義経との結びつきが強い人物として、佐藤嗣信を候補に挙げたいと思います。

源平合戦の絵画では、人物をクローズアップす



る場合、意外とその画題は限られます。屋島ならば那須与一の「扇の的」が有名ですが、「嗣信の最期」も屋島合戦の一場面としてよく取り上げられるものです。そうだとすると、どのような姿で描かれたのでしょうか。主君義経をかばい矢に射られ落馬する。虫の息で義経に手を取られ、別れを告げ息をひきとる……。物語の嗣信の姿は、優美な土佐派の画風や他の3幅とのバランスを考えると、いずれもやや劇的で、不釣り合いな感じもします。なかなか簡単に結論は出ませんが、幻の1幅について、これからも考え続けていきたいと思っています。(資料調査担当 池田伸子)

江戸幕府は日本橋を起点に五街道を整備しました。県内にはそのうちの中山道と日光道中が通っています。日光道中は、徳川家康を祀る日光山までの街道で、県内には六つの宿場がありました。

江戸から数えて日光道中七番目の宿場「栗橋宿」(久喜市)は利根川を臨む位置にあり、対岸の中田宿(茨城県古河市)とともに正式には「房川渡中田御関所」といいます。

慶長の頃(1596-1615)、栗橋宿は下総国栗橋(茨城県五霞町)に住んでいた池田鴨之介と並木五郎平に命じた開墾をきっかけに徐々に人々が移住し、現在の位置に新しく開かれました。家康が江戸に入った頃の関東平野は、複数の河川が入り乱れ、毎年のように洪水を起こす氾濫原であったため、家康は伊奈備前守忠次に命じて河川改修と交通路の整備を積極的に行わせました。小河川を締め切り、新たに流路を開削して利根川が東へ流れるように東遷させたことにともない、交通の要衝として栗橋宿は整備されたのです。

栗橋という地名から、橋があったのでは?と、思われる方も多いかもかもしれませんが、家康は主要河川に橋を架けることを禁じたため、利根川には橋が架けられることはありませんでした。そこで川を越えて栗橋・中田間を通行する際には、「房川の渡し」とよばれる渡船場から渡し船を利用していました。しかし例外として、将軍と朝鮮通信使通行時には、歩いて通行するための船橋が特別に架けられることがありました。

当館所蔵の「中田宿・栗橋宿間船橋図」は、十二代将軍徳川家慶が日光へ社参する際の様子を写实的に描いたものです。船橋は、大型の川船である高瀬舟を川上に並べて催合綱で繋ぎ、その上に平板を敷いた橋です。将軍は駕籠に乗ったまま渡ることができ、絢爛豪華な行列が利根川を通行した様子が想像できます。

この天保14年(1843)の社参については、栗橋関所番を勤めていた足立家に伝わる「御関所御用諸記」にも詳細が記されており、実際に将軍が通行する4月14日より前の4月6日から社参に伴う荷物の船橋通行がはじまり、翌月の5月13日に取り崩しがはじまったとあります。この記事から、船橋は約1ヵ月間架けられていたことがわかります。幕府はこの一大イベントの見物を農民らにも許したので、多くの人々が雄大な利根川に架かる舟橋をながめたことでしょう。

現在、栗橋宿があった場所は、国土交通省による利根川堤防の強化対策事業が行われています。この事業により、旧栗橋宿を含む広大な地域が堤防となるため、多くの家が転出し当時の面影を残すものは消えつつあります。

当館第7室「江戸時代Ⅰ」には、栗橋の関所についての展示があり、時代が変わり町の景観が変わっても、絵図や史料からいきいきとした当時の様子を知ることができます。当館を訪れて、利根川を渡る往時の旅人の姿に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。(学習支援担当 増山聖子)



徳川家達公の筆による「栗橋関所跡記念碑」



「中田宿・栗橋宿間船橋図」(当館蔵)

THE A MUSEUM



歴史と民俗の博物館イベント情報（10月～2月）



埼玉県の
マスコット
コバトン

■特別展「円空ころを刻む一埼玉の諸像を中心に一」を、10月8日(土)～11月27日(日)まで開催いたします。

10月

- 1日(土) 博物館裏方探検隊
- 4日(火) 国宝 太刀の公開 (11/27まで)
- 8日(土) **特別展「円空ころを刻む一埼玉の諸像を中心に一」オープン**
ミュージアムトーク・博物館裏方探検隊
- 9日(日) ミュージアムトーク
- 15日(土) 博物館裏方探検隊
特別体験「十二単の着装」
- 16日(日) 民俗工芸実演「春日部の桐細工」
- 19日(水) 特別体験メニュー「江戸組紐ロングストラップ作り(初級)」
- 22日(土) 博物館裏方探検隊
- 29日(土) 特別体験「火起こし体験教室」
博物館裏方探検隊
- 30日(日) 特別展記念講演会「埼玉の円空仏」

11月

- 2日(水) 特別体験メニュー「福熊手作り」
- 5日(土) 博物館裏方探検隊
- 6日(日) 特別体験メニュー「和紙作り」
- 9日(水) 博物館資料特別鑑賞会
- 12日(土) 特別体験「十二単・直衣の着装」
博物館裏方探検隊
- 19日(土) 博物館裏方探検隊
- 20日(日) ミュージアムトーク
- 26日(土) 博物館裏方探検隊
- 27日(日) **特別展「円空ころを刻む一埼玉の諸像を中心に一」最終日**

12月

- 3日(土) 特別体験「火起こし体験教室」・
博物館裏方探検隊
- 10日(土) ミュージアムトーク・博物館裏方探検隊
- 11日(日) ミュージアムトーク
- 17日(土) 博物館裏方探検隊

1月

- 2日(月) 博物館裏方探検隊
- 2日(月)～9日(月・祝) 博物館でお正月
- 7日(土) 特別体験「十二単の着装」・
博物館裏方探検隊
- 14日(土) ミュージアムトーク・博物館裏方探検隊
- 15日(日) ミュージアムトーク
- 21日(土) 特別体験メニュー「まが玉作り」・
博物館裏方探検隊
- 28日(土) 博物館裏方探検隊

2月

- 4日(土) 博物館裏方探検隊
- 11日(土) 博物館裏方探検隊
- 12日(日) ミュージアムトーク・博物館裏方探検隊
- 15日(水)・16日(木) 特別体験メニュー「江戸組紐帯締め作り(中級)」
- 18日(土) 学芸員合同研究発表会・
ミュージアムトーク・博物館裏方探検隊
- 25日(土) 特別体験「火起こし体験教室」・
博物館裏方探検隊

特別展 **大名と藩** 平成24年 3月20日(火・祝)～5月6日(日)

埼玉県立 歴史と民俗の博物館



40th Anniversary 埼玉県立 歴史と民俗の博物館 (編集発行)
Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地
TEL. 048-641-0890 (管理)
048-645-8171 (学芸)
FAX. 048-640-1964
<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>

埼玉県立歴史と民俗の博物館だより
Vol.6-2 (通巻) 第17号
2011年9月15日発行